

京都市民医連中央病院の 微生物(細菌)検査室開設

京都市民医連中央病院検査技術課長 藤崎 智

京都市民医連中央病院では2014年2月16日から細菌検査室を開設します。

2012年5月から準備を始め、現在は皆様の協力で部屋も完成し細菌検査に必要な機材も搬入されました。

細菌検査室がなぜ、必要なかを簡単に説明させていただきます。

患者様に発熱や腫れなどの感染症を疑う症状が現れた場合、医師は早期に適切な抗菌薬を投与することが必要です。そのため血液や尿・喀痰などを採取して、培養・同定検査(*1)や薬剤感受性検査(*2)を依頼します。

細菌検査を外部の検査所に委託していると、原因となる菌やその菌に有効な薬を調べるのに、早くても5日はかかります。院内で検査をすれば、早ければ3日で菌や薬を見つけることができ、感染症の原因菌がわかり、適切な抗菌薬投与がより早く可能になります。また、研修医の教育にも発育したコーニを観察することや、特徴的な臭いを嗅ぐなど細菌検査室がないと経験できない重要な役割を担います。

私も検査技術課スタッフは患者様の症状が1日も早く快復できるように、迅速で正確な検査結果を報告できるように、日々研鑽に努めて参ります。

*1 培養・同定検査：原因となる菌を増殖させて菌種を決める検査
*2 薬剤感受性検査：原因菌にどの抗菌薬が有効か調べる検査

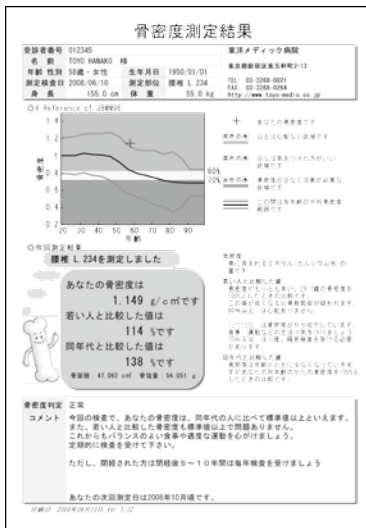
正確、短時間な骨密度検査 DEXA法のお勧め

京都市民医連太子道診療所 事務長 桜本 憲一郎

京都市民医連太子道診療所は、2013年6月からDEXA(デキサ)法による骨密度検査を開始しました。

日本では、約1300万人が骨粗鬆症にかかっていると推定されています。大腿骨・頸椎骨折は年間12万件を超え、約10%の方は1年以内に亡くなっています。骨折の影響で寝たきりになったり、慢性腰痛に悩まされたり、背中が曲がったりして生活に支障をきたすなどの問題も発生しています。

腰椎は、閉経後の女性にとって最も変化が現れやすい個所です。骨代謝が盛んな海綿骨の情報も多く含んでいるので、骨量の変化をはっきりとらえること



ことができ、また脊椎は、骨粗鬆症によって骨折が起こりやすい個所です。健康サポートセンターで行う、骨密度検査DEXA法のみの価格は3千円ですが、人間ドックや特定健診など基本健診と併せて骨密度検査DEXA法を受けていただきますと、骨密度の検査料金が2千円となり、大変お勧めです。興味をお持ちの方は太子道診療所までお問い合わせください。

当会は、環境マネジメント「エコアクション21」の、2014年度上期中の審査、認証、登録を目指し、12月18日にそのセミナーを開催しました。地域事務局京都から講師に来て頂き、2時間半たっぷり環境マネジメントについて聴講しました。当会の二酸化炭素排出量削減の取り組みを評価していただき、その上で、廃棄物、水使用、化学物質の排出量管理と削減の取り組み、組織と役割分担、方針づくり等を他の医療機関の例も紹介してもらい、説明を受けました。また、後半では、必要帳票の作成方法について説明を受け、通常は数日を要する内容を圧縮して終わることができました。

エコアクション21の運用は、ISOを取得している事業所は、その仕組みが活用でき、また、取得していない事業所は、管理運営方法を整理する機会にもなります。また、ISOと異なる点は、目標値を設け、環境への行動を取り組むことができることです。13年度は準備段階として、仕組みの理解と基礎的なデータ整理等を行い、審査、認証に向け、環境への取り組みを進めていきます。

京都保健会としてエコアクション21
認証、登録へ